

第5章 地域での市民・事業者の取り組み

地域の環境をよくするためには、市民・事業者の皆さんの取り組みが鍵となります。

この章では、環境市民会議の皆さんが各地区においてそれぞれ調査した環境の現状と、一年間の取り組みを報告するものです。

ぜひ、皆さんが住んでいる地区の身近な環境について、知る、考える、行動するきっかけとなれば幸いです。

環境市民会議とは？

環境基本計画では、市内を6つの地区に分け、各地区ごとに目指す環境の姿を定めるとともに、地区の環境の現況・課題を整理したうえで、多くの課題から絞り込んだ重点課題と、その解消に向けた重点目標、重点取り組みを「地域行動編」として示しています。

その地区の皆さんの行動が最も重要ですが、その地区の取り組みの推進力となるのが環境市民会議です。

環境市民会議は、市民・事業者によって自発的に環境保全活動を実践する組織ですが、環境基本計画の「地域行動編」は、環境市民会議の皆さんによって策定されたものです。

地区内の町会・自治会や各種団体との連携はとても大切です。

【環境市民会議6地区の区域】



中央地区環境市民会議が調べた環境の現状

私たちが行った調査では、水質や大気が年々改善されている反面、河川への不法投棄や unnecessary アイドリングはなかなか減りません。また、八王子の玄関口である八王子駅周辺の放置自転車やポイ捨てタバコは減少傾向にありますが、まだまだ多く見られます。

こうしたことから、さらに市民への意識啓発活動が必要と感ずます。

活動を重ねることにより、ごみの減量や省エネに対する地域の方々の意識が高まり、関心を持ってもらえるようになりました。

活動内容

■ 河川環境

浅川左岸側の中央地区連合町会と湧水調査及び河川清掃をした際、湧水地を6箇所確認しました。詳細な調査をすれば、湧水地がさらに発見できるかもしれません。河川清掃では、ペットボトルや缶の不法投棄が多かったほか、自転車やタイヤなども多く見られました。河川への不法投棄は年々減少傾向にはありますが、こういった不法投棄が減れば、さらに河川水質が向上するため、今後はすべての町会との協働で河川パトロール等が行えるようがんばります。



町会との協働による河川パトロールの活動

NO₂の測定結果（簡易カプセル）

単位：ppm

	H15年12月	H16年6月	H16年12月
中野上町4-9	-	0.077	0.073
八日町交差点	0.062	0.041	0.055
大横町交差点	0.062	0.052	0.075
八木町交差点	0.024	0.033	0.032
測定地点の平均値	0.041	0.047	0.048

環境基準の適否状況

	環境基準を 満たす	環境基準 オンライン	環境基準を オーバー
測定点の数（ヶ所）	9	17	5

■ 大気汚染

大気汚染（NO₂）の測定を平成15年12月、平成16年6月、12月の3回行いました。

基本的には中央地区18町会、31箇所で行い、一部データがとれない所もありましたが、主な測定点と結果を上に示します。測定点は交通量の多いところが多く、測定時の気象などに左右され一概には言い切れませんが平均的に見ると汚染は横這い状態で、環境基準に対しても上表のとおりです。汚染の要因の一つである交差点の混雑具合などについて「街中ウォッチング」などを行い、更なるデータの積み上げを図ります。

■ まちのみどり

神社などは、巨木が残っている最たるものです。こうした巨木を保全するため、巨木のある多賀神社境内の除草・清掃活動に7月と12月に参加しました。また、年々減少傾向にある生産緑地を保全するため、梅園の保全・管理作業を行いました。さらに、道路アドプト（名称「萌友会」）活動に4月から12月までに5回参加し、ハナミズキとドウダンツツジ合わせて83本を補植しました。まちのみどりや美観、ポイ捨てなどの実態を歩いて調査する「街中ウォッチング」を実施し、快適指数を町会単位で調べ、環境フェスティバルにパネル展示しました。引き続き「街中ウォッチング」を行い、17年度末を目標にグリーンマップを作成するためのデータ収集を行っていきます。



多賀神社の巨木

■ まちの美観等

ポイ捨てタバコの調査を4から9月までに17回実施し、11,742本のタバコの吸い殻を確認しました。昨年調査時より約20%減となりましたが、更なる市民のマナーアップが必要です。

また、街中に今あるみどりの評価と新たなみどりの育成に貢献していくため、「好適（すてき）なガーデニング コンテスト」を17年度に実施します。

■ ごみの減量・資源循環

市民センターまつりや町会単位でのお祭り、あるいは八王子まつりや環境フェスティバルなどで「ごみを減らそう」環境セミナーや環境コーナーを開催しました。この活動がくちコミで広がり、町会単位の集まりや団体から引き合いがあり、当初予定していた回数より多い19のイベントに参加できました。また、参加された方に、ごみ問題などについて理解を示していただき、市民への意識向上が図れました。今後は本年度の参加イベントをもとに、17年度も継続してイベントに参加していき、市民意識の向上を図っていきます。

■ 地球温暖化



省エネルギー教室風景

地球温暖化の原因となっている温室効果ガス。その排出量の削減につながる省エネルギー生活を推進するため、「省エネルギーセミナー」を大和田西町会で実施し、約50名の方々が参加されました。また、子供の頃から環境問題に接してもらうことを目的に、大和田第十小学校で「省エネルギー教室」を開催し、子供9名、大人2名に参加いただきました。今後も今年度作成した資料をもとに、「省エネルギーセミナー」等を開催していきます。

「環境にやさしい生活」を実践していくことを目標に、市では17年度より「はちおうじ省エネ国」事業を拡充することから、各家庭に登録を呼びかけていきます。

北部地区環境市民会議

北部地区環境市民会議が調べた環境の現状

ごみの有料化が始まると、不法投棄が増えるのではと懸念されています。

そこで、わたしたちは「巡回パトロール」を行い、山間部などで多くの不法投棄を発見しました。

回を重ねるごとに改善が見られますが、十分な結果とはいえません。地域住民の監視の目を広げ、不法投棄されない環境づくりが必要と感じました。

また、地区内各所では小規模な開発行為が継続的に行われており、年々緑地が減少しています。みどりを保全する施策や制度などを設け、保全していく必要があると感じました。

活動内容

■ 水

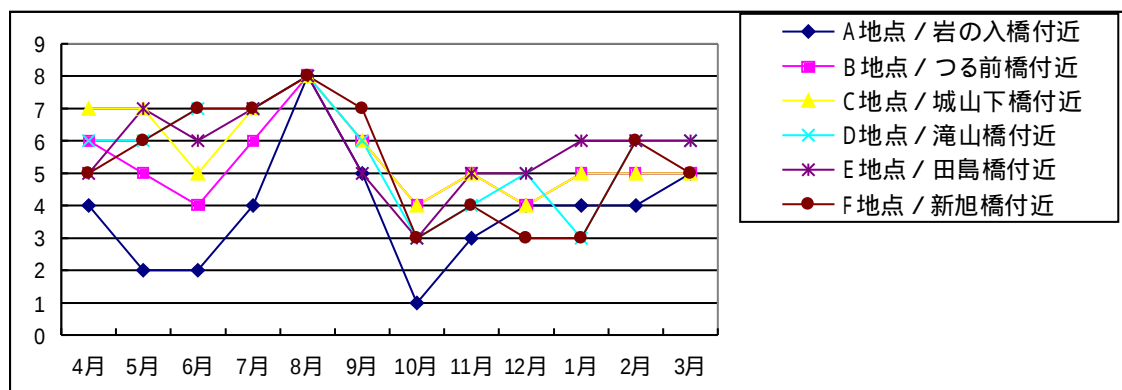
谷地川にウグイやアユなどが戻り、子供たちが水に触れて遊べる、そんな川を目指し、水質調査を滝山橋下や新旭橋下など6地点で毎月実施しています。

また、谷地川の清掃活動と呼びかけています。

今後は、地域の方々に関心を持っていただこうと、水質の調査結果を地域に発信し、更なる河川水質改善への啓発を行っていきます。

谷地川 C O D水質調査（北部地区環境市民会議調べ）目標C O D管理指標3m 単位：mg/l

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
A地点／岩の入橋付近	4	2	2	4	8	5	1	3	4	4	4	5
B地点／つる前橋付近	6	5	4	6	8	6	4	5	4	5	5	5
C地点／城山下橋付近	7	7	5	7	8	6	4	5	4	5	5	5
D地点／滝山橋付近	6	6	7	7	8	6	3	4	5	3	6	6
E地点／田島橋付近	5	7	6	7	8	5	3	5	5	6	6	6
F地点／新旭橋付近	5	6	7	7	8	7	3	4	3	3	6	5



■ みどり・生き物・景観

みどりは水とともに生物の生息の基盤となるもので、多様な植生や生物の生息する場所を確保しなければなりません。実際には、みどりの拠点である「滝山公園」や「小宮公園」、「栗の須緑地」などの保全されている緑地へごみの不法投棄を未然に防ぐため、巡回調査を2回行いました。

また、地区のみどりの保全状態や歴史的史跡を中心とした「環境マップ」を作成しました。今後は、この「環境マップ」を活用して、地域住民に環境について関心を持ってもらえるよう啓発していきます。

さらに、野鳥や野草の観察グループとも連携をとって環境活動を充実させていきます。



■ ごみ

山林や公園などのごみ不法投棄場所の巡回パトロールを3回実施しました。不法投棄については改善が見られているものの、まだまだなくならないのが現状です。今後とも巡回パトロールを継続すると共に、地域住民への啓発活動を行っていきます。また、ごみの有料化が実施され、会員のごみ減量の意識を高めるために清掃工場を見学しました。改めてごみ減量の必要性を実感するとともに、地域住民への啓発のために秋に催された加住と石川の両市民センターまつりに「ごみパネル」を展示しました。



不法投棄現場

■ 道路（交通公害）

簡易カプセルによる NO_2 の測定を、国道16号バイパスや滝山街道などの幹線道路を中心に、20～30箇所の地点で4回行いました。16年度は、この大気測定の結果を環境フェスティバルで展示しました。

今後は、この結果を行動へ反映させるよう検討していきます。



大気測定簡易カプセル

西部地区環境市民会議が調べた環境の現状

山地や丘陵地などの多様な地形には、窪地や谷戸が存在し多くの湧水がみられ、地域には浅川の 8 つの支流と源流域をかかえ、多様な生物が生息する環境は市内でも有数の自然に恵まれた地域である。

農林業の衰退や高齢化でヒノキ、スギなどの植林地は荒廃が進み、営農を諦め耕作放棄した農地も多く点在している。特に水田の減少が著しく、丘陵地の谷戸田は灌木や草で覆われ、耕作が放置された場所は資材置き場などに改変が進んでいる。

高度成長期に宅地化された区域は、道路整備や公共下水道整備の遅れで交通量が増加して慢性的な渋滞が起こり、河川は生活排水で水質汚濁の発生源になり、環境基準を達していない区域も存在している。山間部や河川などには不法投棄が繰り返され、野焼きなどの苦情も多くなっている。

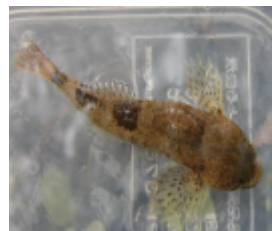
豊かな自然と良好な生活環境を維持するために、ひとり一人が環境について考え、日常生活から変えていく行動を実践することが求められている。そのためには地域の方々との協力がとても大切になっている。

活動内容

■ 水環境

9 月に北浅川（恩方中学校付近、松枝橋等）と大沢川・野堀川合流付近で水質調査と水生昆虫の指標調査を行い、上流域ではカジカやヘビトンボ、トビゲラ類などの水生生物が多く確認されました。一方、大沢川と野堀川が合流する部分では透明度が悪く、臭いも発生して水質が著しく変化しています。ところで、12 月から 2 月までに湧水調査を行いました。八王子管工事工業協同組合や町会自治会連合会の方々に協力していただき、崖線や源流など約 30 箇所の調査において 28 箇所確認することができました。まだ、未確認の湧水地があると思われることから、継続して調査します。

今後は、四季折々に自然観察や上流から下流域の水質調査、湧水マップの拡充、井戸水の現存と利用状況などについて町会・自治会・事業者と協力を行いながら、雨水利用の推奨や河川流量の確保など良好な水循環を確保するための活動を展開していきます。



下恩方のカジカ

■ 都市環境・みどり

町会・自治会、学校、PTA と協働で地域の自然を紹介するイベントの開催や地域の保全活動に参加して谷戸田や雑木林が荒廃していく実態を知り、環境保全の関心や意識が高まっています。保全活動は自然を回復させるためだけではなく、不法投棄や野焼きの防止、水源涵養の向上と水質浄化機能の働きを高め、豊かな生き物の生息空間を確保しながら保全活動を通して自然

を大切に作る心を育んでいく役割を担っています。活動には土地所有者、地域の方々の理解と協力が不可欠です。休耕田、雑木林の手入れなど里山景観の回復を目指した活動が地域で開始されました。

■ 大気汚染・粉塵公害

簡易カプセルを使用した NO_2 の大気測定を、檜原、四谷等の交差点と沿道の17地点で年間2回実施しました。城山大橋交差点では環境基準値を超え、その他の地点でもこれに近い数値を記録しています。これは、交通量の増加と渋滞時間が原因と思われますが、大気汚染の原因の一つとされる渋滞については、主要交差点で慢性的渋滞箇所である檜原、四谷及び城山大橋交差点の交通量を調査した結果を下表に示します。渋滞を引き起こす要因として、交通量の増加と右折レーンや右折信号が少なく、右折信号が設置されていても点灯時間が短いなどがあげられます。

今後は、主要交差点以外にも調査範囲を広げ、年5回以上の調査活動を進めていきます。また、圏央道北八王子ICの開通が予定されていることから、開通前後の大気を継続的に測定し、比較ができるよう資料の作成を行っていきます。

【主要交差点 交通量調査結果】

交差点名	9月22日(水)	10月29日(金)	11月22日(月)	調査時間
檜 原	2,001台(大中型車279台)			午前7～8時
城山大橋		1,847台(大中型車279台)		午前7時半～8時半
四 谷			2,228台(大中型車530台)	午前10時半～11時半

(注) 台数は何れも交差点を基点に各方向からの通過総数

■ 廃棄物・資源、エネルギー

北浅川流域の水質汚染の一因でもある不法投棄の摘発を、高尾警察署と連携して行い、その結果、事業系の不法投棄が多く見られました。不法投棄を減らすためにも、警告看板の設置を要請するとともに、巡視範囲の拡大や実態の調査、さらには今ある不法投棄マップの更新をしていきます。また、ごみの有料化が実施されたことにより、家庭におけるごみの分別と排出量の削減を呼びかけるほか、町会自治会などと連携・協力して資源ごみのリサイクル運動を推進しました。

私たちの調べでは、実施前より可燃ごみでは38%、不燃ごみでも36%の減量となったことから、今後は、ごみの分別の徹底とリサイクル推進の啓発・広報活動を行うほか、ごみ削減の事例紹介を行っていきます。

■ 環境教育・環境学習

環境を良くするためには、一人ひとりの意識と行動が大切であり、環境市民会議では実践活動や体験活動のイベントを通しての地域の方々への啓発や意識付けが重要と考えています。

11月には、恩方農村改善センターにおいて「西部地区の環境を考える」シンポジウムを開催し、12名の参加がありました。

今後は、大気、廃棄物、水及び里山の各部会の実践活動において、環境学習や環境教育につながるテーマを盛り込んでいきます。

西南部地区環境市民会議が調べた環境の現状

高尾山を中心とする豊かなみどりに恵まれた地区ですが、町田街道等の大気汚染や、一部河川の汚れが気になる箇所がみられます。車の入れる山間部には家電製品等が多く不法投棄された箇所もあります。また、現在建設中の圏央道による景観の大きな変化があり、今後は騒音や大気汚染発生等の環境影響を監視していく必要があります。

地域全体の取り組みとしては、地域を一つの博物館と考え、自然や文化遺産などを主に市民の力を活かして保存・展示し、ふれたり学んだりすることのできる「エコミュージアム構想」を検討中です。この構想の実現には、計画段階からの行政・市民・事業者の協働作業が必要です。啓発活動にも力を入れており、地区内市民センターでの展示・啓発活動や、いちよう祭りでのごみ分別指導など、積極的に進めているところです。

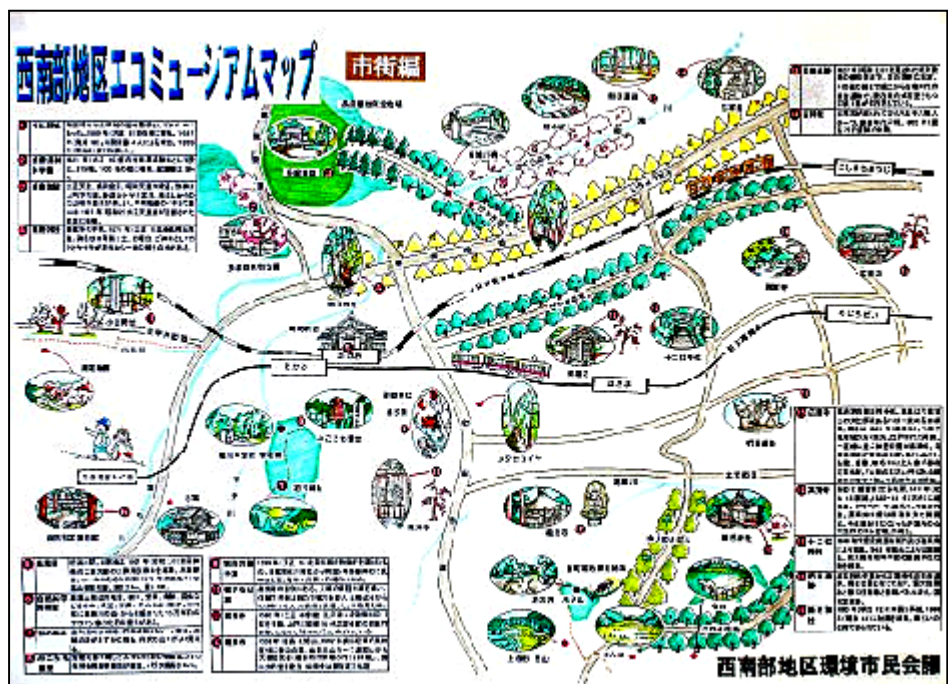
活動内容

■ エコミュージアム構想

エコミュージアム思想（地域まるごと博物館）による、地域環境計画づくりに取り組むため、法政大学の馬場教授を招き「エコミュージアム研究会」を開催しました。

また、西南部地区エコミュージアムガイドマップ「市街編」を作成し、横山南及び浅川の市民センターまつりと同文化祭に初めて参加し、エコミュージアムマップの展示と携帯版の配布を行いました。3月には、エコミュージアムマップ「高尾編」も8割方完成し、今後は多くの方々に環境への関心を持っていただくため、町会や商店街、地域市民団体等との交流を深めていきます。

高尾山の自然環境を保全するために、人工林や雑木林の景観写真を定期的に記録しながら経年変化を追っていくとともに、「環境指標植物」について勉強会を開催し、高尾山において指標植物を指定し、記録写真を撮っていきます。



■ 里山保全

里山保全活動の支援の一環として、殿入池の沢の現状の写真撮影や不法投棄を調査しました。その他の里山にも不法投棄が多く見られます。また、地域の方々に里山に興味を持っていただこうと、6月に「池の沢に蛍を増やす会」との協働で「里山と蛍観察会」を開催しました。今後は、里山ボランティアの方々と連携し、自然観察会を開催し里山保全を進めるほか、不法投棄調査やその対策の検討を行っていきます。



ホタルの観察風景

■ 流域の水質調査

南浅川水系（案内川、小仏川、初沢川、南浅川、山田川）と湯殿川水系（大船川、殿入川、湯殿川）において、パックテストによるCOD値、亜硝酸等の測定を定期的に行っています。今年度の特徴的な結果として、館町団地近くの殿入川で下水道工事によるものか、COD値がかなり改善しました。湯殿川水系は全般に汚れており、その他の南浅川なども毎回きれいというわけではなく変動があります。今後は、水質マップなどを作成し、家庭からの生活雑排水流入を減らすための啓発活動を今後も進める必要があります。また、南浅川では多摩御陵より下流の一部区間で、春先に川が完全に枯れる現象が起きており、注視しています。

■ 大気汚染測定



浅川センター文化展に参加

町田街道と甲州街道及び幹線道路の大気汚染を監視するために、12箇所で二酸化窒素測定を行っています。二酸化窒素濃度は、0.03ppm以下を目標としたいのですが、地区内には0.05ppm以上の箇所がいくつもあります。主な箇所は、渋滞の多い町田街道と甲州街道の交差点、町田街道消防署横、高尾駅南口などです。今後の課題は、自動車からの大気汚染の実態を、市民全体に理解してもらうことです。

■ ごみ減量

身近な環境診断を行うための「ちえっくどう」を活用してごみの出し方などを調査したり、有料化前から、実物を利用した新しい分別方法のパネルを作成し、横山南市民センター、浅川市民センター、いちょう祭りでの啓発活動を行いました。

「いちょう祭り」では、エコネットワーク・八王子との協働で、来場者や出展事業者の方々への分別指導を行いました。



イベント会場でのごみの分別

■ ごみの不法投棄

地区内全体のごみ不法投棄やポイ捨ての現地踏査を行いました。不法投棄は、車の入れる山林や人目のない場所に家電製品や粗大ごみ、事業系ごみがみられます。街中では、自動車を路上駐車できる道路（多摩御陵参道、八王子医療センター前等）で、車からの雑誌やカンやペットボトル、タバコのポイ捨てが目立ちます。これらごみの不法投棄の多発地帯は概ね把握しマップを作成しました。今後は、隣接した西部地区環境市民会議との連携も進め、具体的な対策を行っていきます。

東南部地区環境市民会議が調べた環境の現状

大塚山公園から御殿橋までの約 1.5 キロメートルは、八王子市史跡「絹の道」に指定されていましたが、放置されていました。東南部環境市民の会は大塚山公園を美しくする活動を始め、歴史と自然にふれあう散策路の拠点が美くなりました。

河川の水質は、上流部の汚れを含めてほぼ横ばいの状態ですが、浅川と湯殿川の一斉清掃では、大量のごみが回収されました。このことから、河川への不法投棄が水質汚濁につながることを啓発していく必要があります。

ごみの有料化が始まったことにより、私たちの作成した「ごみ事典」を活用していただく機会も多く、住民の分別に関する意識も高まっています。しかし、道路などへのポイ捨てはなかなか減らず、更なる意識の高揚を図っていく必要があります。

16号バイパスの大気汚染は、数値には大きな変化はないが少しずつ上昇傾向にあります。特に北野町575番地、同592番地の中央線高架下の数値が高く、ここは道路構造上の問題もあり、行政への働きかけを強く求めていく必要があると思います。

活動内容

■ 河川・水質

浅川、山田川、湯殿川、兵衛川など計11箇所の水質調査及び河川環境を調べました。

結果として、湯殿川、兵衛川上流部では依然COD値3以上を示しています。この水質調査の結果を10月に由井市民センター、11月には北野市民センターで発表しました。

河川環境の悪化となる河川ごみの一斉清掃を多摩川流域懇談会浅川部会と合同で浅川と湯殿川で行いました。東南部から15名参加し、大量のごみを川から引き上げました。

今後も水質調査や清掃活動を行っていくとともに、「ちえっくどう」を使った環境やさしさ調べを実施し、地域の方々に関心を持ってもらうために啓発活動を継続していきます。

■ みどり・歴史景観

5月に絹の道勉強会、7月には郷土史研究家と絹の道の散策会と勉強会、又10月には大塚山公園のアドプト登録を行い「大塚山公園を美しくする活動」を開始、荒れ果てていた歴史公園は見違えるほど美くなりました。

絹の道を中心とした歴史と自然にふれあう散策マップを作成し、市民センターまつりや環境フェスティバル、エコひろばの展示など啓発活動を行いました。今後は、御殿山尾根道を道路アドプトにより自然散策路として整備し、このマップを活用して住民が気軽に参加できる散策会を行っていきます。



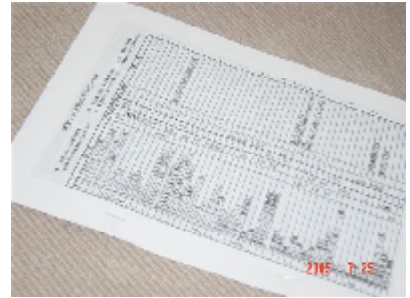
■ ごみ分別・収集・リサイクル

ごみと資源物の分別を分かりやすく説明した「ごみ事典」を作成し、環境フェスティバルで展示しました。

また、8月にアクティブ市民塾で説明会を実施するとともに、由井と北野の市民センターまつりに出展・展示を行いました。

ごみの有料化が実施されたことにより、分別への関心は非常に高く、「ごみ事典」を活用していただきました。

今後は、「ごみ事典」を電子データで配信することを検討、「分別で間違いやすいもの集」のデータ収集の検討も行っていきます。



独自のごみ事典

■ ごみのポイ捨て・都市の美観

北野駅やみなみ野駅など6駅の周辺道路をモデルとし、ごみ拾い・カウントを秋・冬の2回実施しました。

17年度には、この集計結果を環境フェスティバルやエコひろばで発表し、住民への啓発活動に努めていきます。

また、「まちを実際にきれいにする動き」につながるしくみを検討し、展開を図っていきます。この結果をポスターなどにして当該利用者に知ってもらうことも検討していきます。

■ 大気

由井市民センターまつりで、「ちえっくどう」を使用して環境診断士による一般住民への身近な環境診断をした結果、昨年より0.2ポイント増加しました。

これは一般住民の大気汚染への関心度の現れかと思われます。

しかし、年4回の16号バイパスNO₂に測定結果は環境基準を大幅に上回る箇所も多数ありました。原因としては幹線道路で大型車が24時間昼夜を問わず通行し、渋滞することにあります。

この測定結果は、八王子環境フェスティバル、由井・北野市民センターまつりで展示しました。

またNO₂に、CO₂の汚染防止策の一環として「ケナフ」の栽培を試みています。「ケナフ」を含め、一般住民の環境汚染に対する関心度を高めるため、更に啓発に努めます。

東部地区環境市民会議が調べた環境の現状

南側は多摩ニュータウンとして新たな街並みを、又北側は多摩丘陵が東西に走り市の特色としてみどりの景観をそれぞれ形成しています。

この地区の生態系は多摩丘陵の里山を維持することで守られています。残された里山を守ろうと、自然観察会を開いたり、保全活動に参加したりしています。

また、ごみの不法投棄の現状を把握するため、未開発地や雑木林を実踏しましたが、懸念していたとおりごみ有料化後に多少増えていたことから、引き続き現状把握していきます。

大気と水については、環境市民会議 6 地区に関わることであることから、NO₂の測定及び水系マップの作成を行っていきます。

活動内容

■ 自然環境

里山環境を保全・再生・支援するために、自然観察会を「多摩丘陵の自然を守る会」の協力を得て、春と秋の計 3 回実施しました。

また、「全国雑木林・多摩」の活動にも参加しました。

巨樹調査を 4 回実施したなかで、2 月、3 月に「さくら」の品種調査を行いました。開花が遅れて継続調査としました。巨樹等の調査の終了には 3・4 年程度かかるものと思われませんが、継続的に調査活動をしていきます。



巨樹調査

■ ごみ・資源・エネルギー



市民センターまつりでの啓発活動

ごみの不法投棄の実態を把握するため、ニュータウン地区で主に開発が行われていない土地や法面の雑木林を中心に、5 月、7 月、11 月の 3 回、現地を歩いて現状把握に努めました。

不法投棄の主たる物としては、粗大ゴミや事業系のごみなどですが、数え切れないほどの種類が見られます。

ごみの有料化実施直後、懸念していたとおり不法投棄量が増えました。今後ともごみの不法投棄の現状を把握していきますが、不法投棄を減らすためには、市民・事業者への啓発活動や市への提案が必要です。

また、南大沢市民センターまつりにおいて、ごみの分別にかかわる展示と説明を行うほか、ごみ減量の啓発キャンペーンを行いました。ごみの有料化が始まったことで、住民の関心は非常に高くなりました。

■ 環境にかかわる実践活動

地区内で活動している環境関連の団体等との連携・交流を図り、協力体制を確立するため、南大沢駅周辺で活動する団体との連携ができました。順次、交流を深め、環境市民会議への参加を呼びかけていきます。また、1月には中央大学と協働して身近な環境診断ができる「ちえっくどう」を使って環境診断を行いました。



「ちえっくどう」による環境診断

■ 河川・水質



大田川と大栗川の合流点

6月に「全国水環境マップ実行委員会」や「浅川流域市民フォーラム」などの協力により、水系マップの作成を行いました。

今後は、大栗川と大田川に流入する下水の実態調査を行うとともに、地域住民の方々に対し水質汚濁の原因を作る有機物や有害物等を含む生活排水を抑制するよう啓発していきます。

■ 大気汚染

市内全域における NO_2 の調査を他の環境市民会議と協力し、データ収集しました。

その結果、昨年と比べ変化はほぼ横ばいでした。

これからも、他の団体と連携を図りながらデータ収集を行っていきます。

また、自動車やバイクについては、アイドリング・ストップの励行、低公害車の購入・使用、ディーゼル車の排出ガス規制や利用を控えるなど広く啓発していきます。



東京薬科大学交差点付近

地域行動編評価一覧

環境基本計画における地域行動編の１６年度の活動について、６地区の環境市民会議が各々内部で総括評価し、その評価を環境推進会議で相互評価したものです。

【中央地区環境市民会議 総合評価】

< 環境市民会議での内部総括評価 >

一部町会との協働による河川清掃に取り組めたことは一定の評価ができ、今後は、地区内の多くの町会等と取り組めるよう努める。

大気汚染測定については、測定箇所も増設するとともにデータの積み上げにより大まかな傾向をつかむなど成果は上がっている。騒音測定は実施できなかった。

神社境内の清掃作業、生産緑地（梅園）の保全活動などで実績を上げたが、データ収集に関しては目標に至らなかった。

町会と連携を密に他団体との協働で道路アドプト活動を行い、補植等行ったほか、ごみ対策と地球温暖化対策では、セミナーをそれぞれ開催し、開催回数、参加人数共に目標を達成でき、大きな成果が得られた。

< 環境推進会議での相互評価 >

市民センターまつりの参加、独自のセミナー開催など、積極的に地域に根づいた活動に取り組まれたことがとても良いと考えます。

町会や学校などとの連携はとても重要であることから、これまで以上に取り組んでほしい。

【北部地区環境市民会議 総合評価】

< 環境市民会議での内部総括評価 >

谷地川のＣＯＤ値の測定を行い、結果は評価できるものであった。

環境マップが完成し、マップを利用することで地域住民の環境への関心が高まる事が期待できる。しかし、緑地の実態調査や緑地の確保などについては、思うように取り組めず今後活用と充実を図る。

ごみ対策については、不法投棄場所の巡回を行ったことにより、改善が見られた点は評価できる。

大気汚染測定において、測定回数や測定場所を増やしたことは評価できるが、整理した結果を反映させるための活動は行っていないことから、再考したい。

< 環境推進会議での相互評価 >

環境マップの完成は大きな成果であり、このマップを利用し地域住民が環境への関心を高められるようさらに努力してほしい。

ごみの有料化に伴い不法投棄が増加することをしてしたが、市民会議の活動により具体的に改善が非常に大事なので、今後も継続した取り組みをお願いしたい。

【西部地区環境市民会議 総合評価】

< 環境市民会議の内部総括評価 >

管理指標全般について、市民活動の範囲を越えており、今後は取り組みやすいテーマに絞り込んでいき、市民レベルで活動できる内容に改めて、行政・事業者と連携をとりながら保全活動を継続していく。

なお、大気汚染測定、交差点の実態調査などについて実施し、二酸化窒素値の一部悪化、酸性雨や渋滞の状態は好転していないが、渋滞の要因の手掛かりをつかむことができた。

また、町会・自治会との協働によるリサイクル運動やごみ分別説明会への参加・協力、野焼きに対するパンフレットづくりなど、ごみ問題への取り組みについては、一定の成果があった。

< 環境推進会議での相互評価 >

市民活動の行える範囲に管理指標を見直すことは、適切と考えます。

ごみ問題への取り組みは大変重要であり、町会等との協働によるリサイクル運動やごみ分別説明会の開催などについて、なお一層努めてほしい。

【西南部地区環境市民会議 総合評価】

< 環境市民会議の内部総括評価 >

自然環境の分野では、エコミュージアムガイドマップ市街地編の作成と高尾編の一部作成、高尾山の景観写真撮影などを中心に活動した。里山保全については、ボランティア団体と協働で観察会を実施し、一定の成果を得た。

河川の水質検査と大気測定については、わずかな人数で精力的な調査活動が実施できた。

ごみ減量については、地域住民等への啓発活動を積極的に実施したことは評価できるが、1人1日あたりの排出量調査は、実績数値の算出が難しく、調査方法など一部見直す必要がある。

また、不法投棄については、実態調査の回数が少なかったものの、他の地域との連携ができたことは評価できる。

< 環境推進会議での相互評価 >

エコミュージアムマップの市外編の完成はとても評価できる。また、現在作成中の高尾編についても期待しており、今後は、このマップを活用して地域の人たちと共に活動が広がるよう努めてほしい。

ごみ減量への積極的な地域活動や河川・大気の調査について市民レベルで展開できているので、今後も継続した取り組みをお願いしたい。

【東南部地区環境市民会議 総合評価】

< 環境市民会議の内部総括評価 >

川については、水質・河川環境の調査、清掃活動への参加、啓発活動を行った。

みどり・歴史景観では、絹の道勉強会や「歴史と自然にふれあう散策マップ」の作成やその啓発活動、里山ネットワークづくり行ったほか、絹の道の拠点である大塚山公園のアドプト活動を開始した。

ごみ対策では「ごみ事典」を作成し、市民センターまつりへ出展、説明会を行い、住民の分別に関する意識も高まり、大きな成果を上げた。

なお、道路等へのポイ捨てを撲滅するため、更なる意識の高揚を図る必要がある。

大気汚染の測定結果は改善が見られず、交通量の増大と市民の意識不足が課題である。

< 環境推進会議での相互評価 >

絹の道勉強会や里山ネットワークづくり、「ごみ事典」の作成、継続的な大気汚染測定など、数多くの取り組みがなされ、とても評価できる。また、散策マップについては今後自然体験講座など地域活動での活用に期待したい。

河川の水質調査や清掃活動、又大気の測定など、他団体との連携を図りながら、続けてほしい。

【東部地区環境市民会議 総合評価】

< 環境市民会議の内部総括評価 >

自然環境の分野では、里山づくりをはじめとし、自然観察会や巨樹調査など目標を達成できた。

ごみ対策では、市民センターまつりなどでのごみ減量啓発キャンペーンや有料化実施前後の不法投棄場所の巡回を行うなど、実績を上げたが、継続が必要。

河川・水質の分野では、他の団体と連携して水系マップの作成や実態調査を行った点は高く評価できる。

大気汚染の測定については一部成果を上げたが、今後学校との連携・協力のための検討が必要である。

< 環境推進会議での相互評価 >

自然観察会や巨樹調査、特に里山づくりについて取り組まれたことは地域の特色ある活動としてとても評価できる。

ごみ対策では、不法投棄場所の巡回やごみ減量の啓発など、今後とも継続した取り組みにしてほしい。

環境市民会議の活動がさらに地域に広がるよう他団体や学校との連携に努めてほしい。